

1年生研究実践講座

10月20日（月）より5回に渡って、GS科1年生を対象に研究実践講座を実施しました。大阪教育大学の吉本直弘先生、京都大学の植田充美先生をお招きし、それぞれ「局地気象観測」、「酵母菌の生育とバイオエターノルの生成」というテーマでご指導をいただきました。

生徒にとっては初めての経験も多く、初日こそ緊張と戸惑いもあったようですが、観測や実験に取りかかる前の基礎知識について丁寧に教えていただき、扱い慣れていない観測器具や実験器具に苦戦しながらも、しっかりと目的を理解して観測や実験を進め、最終日には結果を堂々と発表することができました。

生徒の皆さん、今回の講座で学んだことを今後の探究活動に活かしてくれることを期待します。



生徒たちの声

長い期間複数回に分けて多くの人と実験する経験ができて良かったです。実験をよりよくするための工夫や発表のコツなど、具体的なアドバイスがとても参考になりました。先生の講義から研究も自分のやりたいことにどんどん挑戦すること、色々な人に相談して意見を取り入れていくことが大切だということが分かりました。

予測や仮説を立ててから観測を行うことで、考察を深めたり、多くの発見があったりするので大切だと思った。思った通りにいかず、失敗があってもそれは結果であり、疑問が新しく生まれ、次の研究へつながるので大切なことだと分かった。他にも発表の表現やパワーポイントの作り方なども学べたので、理数探究で活かしたい。

こんなに長期間にわたって実験を行ったのは初めてだったので、毎回の作業が新鮮で、とても良い経験になったと思う。初めて扱う器具も多く、実際に操作する中で理解が深まり、知見が大きく広がったと感じている。また、京都大学の先生から糖についての研究や学問への向き合い方など、普段は聞けない貴重なお話を伺うことができ、刺激になった。こうした経験は今後の学習にも必ず活かせると思った。

研究実践講座を終えて、様々なことに取り組むことができました。自分は局地気象観測を選び気温などを計測しました。初めての経験だったのでこのようなことができてよかったです。観測で得たデータを元にプレゼンテーションのスライドを作っていく中でなぜそのような結果になったかを考えることができました。考え方や、伝え方、話し方を工夫して考えることがこの授業を通してできたのでよかったです。